

令和3年度 学校評価報告

草加市立栄小学校

(令和4年2月1日作成)

1 学校教育目標 よく考える子〔知〕 思いやりのある子〔徳・情〕 ねばり強い子〔意〕 体をきたえる子〔体〕 －児童一人一人を大切に、さわやかで活気あふれ、笑顔かがやく栄小学校－ 【キャッチフレーズ】 「さわやか かつき えがお の さかえ」	
2 重点目標・努力目標 1 学級・学年経営の充実 2 学習指導の充実 3 豊かな心を育む指導の充実 4 健康な体づくりの推進 5 生徒指導の充実 6 開かれた学校づくりの推進 7 特別支援教育の推進	3 前年度の成果と課題 成果 ○草加市の基本方針を踏まえ、学校教育目標の実現を目指し、全教職員が「凡事徹底」「率先垂範」「協働・協力」を合言葉に教育活動の充実に努め、児童が全体的に落ち着いて、明るく元気に学校生活を送ることができている。 課題 ●学校教育目標「ねばり強い子」「体をきたえる子」がよりよく実現されるよう、学校行事をはじめとして、児童が目標をもち、それに向かって努力し、やり遂げる機会を計画的・意図的に工夫し、教育活動の一層の充実を図る。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○学校経営目標や方針について共通理解を図り、教職員が協働・協力して学校教育目標の実現を目指す学校づくりを推進した。 ○適正な予算管理・執行ができた。 ○職員会議の効率化に向けた組織的な運営が行われた。 ●校務分掌の組織において、部員と協力して行事や諸活動を円滑に行えるよう工夫する必要がある。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○図画工作科の研修における主体的・対話的で深い学びの授業展開や見方・考え方について研修し、教員の授業力を向上させることができた。 ○学年で教材研究をすることで、単元を通じた授業改善を行うことができ、授業力を向上させることができた。 ●オンライン等を含め、校外研修に積極的に参加させ、教師一人ひとりの強みを生かした一層の授業改善・人材育成を図る必要がある。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○コロナ禍において、健康観察や校内の感染防止対策を工夫し、安全管理を徹底することで、児童が安心して学校生活を送ることができた。 ○定期的な防犯ブザーの点検、声出し訓練の実施、安全点検、計画的な保健指導、不審者対応訓練を実施できた。 ●各種マニュアルのさらなる改善を行い、教職員への周知と活用を徹底する。(特に深夜の地震対応)
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○倫理確立委員会を通じ、個人情報の管理、情報漏洩の防止などへの意識を高めることができた。 ○施設設備の適正な管理が図れた。 ○開放団体・施設使用団体と連携し、施設の有効活用に努めた。 ●設備管理・情報管理マニュアル等の見直しを随時行い、適切に管理していく。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	●「学校だより」やHP等を通じて、教育活動等を保護者・地域へ発信し、家庭・地域との共通理解が深まるよう努めた。 ○新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じて、授業参観・学校公開、運動会を実施することができた。 ○年4回学校運営協議会を開催し、学校運営方針への理解、課題等の協議を行い、解決することができた。 ●コロナ禍における開かれた学校づくりについて、児童と地域の関わりについて工夫して実施できるようにしていく。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○中学校区で幼保小中を一貫した教育について、研究主題や組織編成の見直しを行い、具体的取組を共有し、教育活動の充実を図った。 ○標準カリキュラムを確認しながら、指導内容について、幼保や中学校とのつながりを意識して授業実践することができた。 ●各学年での交流内容を見直し、効果的に実施する。

草加市立栄小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍における教育計画やオンラインを活用した学習を工夫し、授業時数を確保することができた。 ○教育目標の実現を目指す具体の取組について、学校全体で共通理解を図り、協働して実践した。 ●教育目標の「ねばり強い子」「体をきたえる子」の具現化に向けた取組の一層の推進を図る。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○図画工作科を研究教科とした校内研修の成果を生かし、主体的・対話的で深い学びの視点を大切に授業改善を図り、学力向上につながった。 ○コロナ禍においても、社会科見学や外部人材を活用した体験学習を実施することができた。 ●主体的・対話的で深い学びの授業改善の一層の推進を図り、個別最適な学習についても充実させていく。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳ファイルの活用を通じ、家庭と連携し、児童の道徳的実践力の育成が図れることができた。 ○道徳の授業研究を計画的に行い、多面的・多角的な話し合いの工夫等を実践することができた。 ●各教科との関連を深めるための指導計画の見直しや各単元の評価計画の見直しを図る。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度までの研修を引き継ぎ、授業改善が図られ、外国語・外国語活動における教員の指導力向上に繋げることができた。 ○毎週木曜日をイングリッシュデーとすることで、放送やSEタイムを効果的に実施し、外国語に親しみ、意欲的に活動する児童の育成が図られた。 ●教職員の英語力及び会話力を向上させていきたい。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍においてもベア学級による交流を実施し、互恵性を育むことができた。 ○児童会活動において、感染症防止対策を講じながら計画的に実施することができた。 ○各学級での学級活動を充実させるため、年間指導計画の見直しや統一された学級会の計画が必要である。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットを積極的に活用することにより、学習活動を充実させることができた。 ○感染症防止対策を講じ、指導計画を工夫することで、児童に学びへの達成感を味わわせることができた。 ●指導計画に地域の人材を位置づけ、「社会に開かれた教育課程」を確実に実行していきたい。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「報連相」の徹底による情報共有により、組織的な対応につなげることができ、迅速な対応ができた。 ○教室環境チェックやハートの日の取組、生徒指導委員会での情報提供等、積極的な生徒指導ができた。 ●教職員一人一人の生徒指導における自己指導能力を身につけさせる研修等を実施していきたい。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアパスボードの活用について、栄甲中学校区で共通理解を図り、具体の取組を共有して進めることができた。 ●キャリア教育が各教科・領域においてどのように位置づけられているのかを研修を通して育んでいく必要がある。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者と連携し、児童一人ひとりの教育ニーズに応じた個別の指導計画・教育支援計画に基づき、指導方法を工夫しながら教育の充実に努めた。 ○コーディネーターを中心に研修を行い、教職員の共通理解、指導方法の工夫と改善を行った。 ●通常学級に在籍する教育的支援を要する児童への支援の方法と校内支援体制の充実を図る。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「この本読もう、栄っ子」等、読書活動の充実を図り、進んで読書する児童の増加につながった。 ○司書教諭、学校司書、非常勤職員が連携して図書紹介や掲示を行い、魅力ある図書館づくりを推進した。 ●国語科や社会科等の年間指導計画を意識したブックトラックの活用により、読書の習慣化につなげる。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットや大型テレビの導入により、より効果的なICTの活用を図ることができた。 ○各学年で、情報モラル教育を実施することで、児童への意識づけを図ることができた。 ●ICT機器の効果的な活用推進のため、計画的な校内研修が必要である。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の人権感覚を高めるため、全校集会、学年集会、学級指導等、様々な場面で繰り返し指導を行い、自他ともに大切にし、互いに認め合える児童の育成に努めた。 ●各教科と関連させた全体計画の工夫改善を行い、学校全体で人権感覚の一層の育成を図る。

草加市立栄小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色 ある 学校 づく り	①特色ある学校づくり	・地域の人材活用 ・体験活動の推進	B	○感染症防止対策を講じながら、地域の人材を活用して体験活動を行うことで、児童に地域への愛着を持たせることができた。 ○近代美術館の方を講師に招聘して出前授業を実施したことで、児童に美術への興味・関心を高めることができた。 ●オンラインでの実施を含め、さらなる積極的な体験活動の推進を行っていききたい。
	②学力、体力の向上	・栄っ子の基礎基本 ・学力向上のための指導法の工夫 ・体育の授業の充実	B	○栄小スタンダードを踏まえた授業実践や県学力・学習状況調査の結果を分析し、児童の実態と課題を明確にした上で、課題解決の手立てを工夫したことにより、全体的な学力の向上につながった。 ○日々の授業実践の中で、教職員一人一人がお互いに指導方法を学び合い、高め合うことができている。 ●体力的課題の克服に向けた取組を充実するための体育授業の指導法の工夫・改善を実施する。
	③一人一人を大切にし、信頼関係に立った生徒指導の充実	・共通理解・共通行動で組織対応する生徒指導 ・一人一人によりそい信頼関係に立った生徒指導	A	○日々、学年内で情報共有し、月1回の生徒指導委員会、教育相談部会において、組織で対応することで、学校全体で生徒指導課題への対応を協議し、役割の分担や協力して指導にあたるよう組織的に行動した。 ●児童一人ひとりをかけがえのない存在として大切にすることを根底において、児童理解に努め、問題行動等の未然防止、早期発見、適切かつ迅速な解決に組織的・積極的に取り組んでいく。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- ・「第三次草加市教育振興計画(笑顔かがやく草加教育プラン)を踏まえ、学校教育目標の実現を目指し、全教職員が「凡事徹底」「率先垂範」「協働・協力」を合言葉に教育活動の充実に努め、児童が全体的に落ち着いて、明るく元気に学校生活を送ることができている。
- ・主体的・対話的で深い学びの視点から「草加の学びを支える授業の5か条」や自校の学力向上プランに基づく授業改善を日常的に行い、学校全体としての学力向上が、教職員の指導力の向上につながっている。
- ・図画工作科における校内研究において、指導法の工夫改善や見方・考え方について研究を深めたことで、図画工作科に自信をもって指導することができるようになり、児童の作品も以前に比べてよりよいものになっている。
- ・栄中学校区の子どもの実態や課題を把握し、研究主題の見直しや研究組織の再編を行い、中学校区を目指す子ども像の実現に向けた幼保小中を一貫した教育の具体的な取組を進めることができていく。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策等、児童の安心・安全確保のため、学校全体を学習面・安全面など様々な視点から適切に管理することに努めている。状況の変化に応じて、随時取組内容の工夫改善を行い、教育環境の整備を進めている。
- ・学校運営協議会を通して、児童の安心・安全などについて、協議することにより、学校運営における課題解決に向けた開かれた学校づくりの在り方や保護者・地域の願いや思いに寄り添いつつ、手立てを工夫していくことにつながっている。

6 次年度の改善策

- ・学校教育目標「ねばり強い子」「体をきたえる子」がよりよく実現されるよう、学校行事をはじめとして、児童が目標をもち、それに向かって努力し、やり遂げる機会を計画的・意図的に工夫し、教育活動の一層の充実を図る。
- ・教職員一人ひとりの強みを生かし、それぞれの力が最大限に発揮されるようバランスのとれた校内組織を編成し、効率よく機能させることにより、学校のチーム力のさらなる向上に努める。
- ・学校運営協議会を活用し、家庭・地域の声に耳を傾け、学校に寄せられる要望等に誠実に対応することで、学校教育への家庭・地域の理解を深め、協力を得られるようにしていく。
- ・社会に開かれた学校づくりを進めるために、学校の教育活動を公開する機会を増やしていくと共に、学校・学級だよりや学校HP等による学校からの積極的な発信を行っていく。
- ・幼保小中を一貫した教育のさらなる推進を図るため、15年間を見通した教育課程の編成を見直し、中学校区の各校・各園が共有することにより、教職員間の共通理解を深めながら、計画的に具体的な取組を継続していく。
- ・生徒指導・教育相談について、意図的・積極的な取組をさらに強化していく。関連機関やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとの連携を密にして、組織的に対応していくことにより、問題行動やいじめの未然防止、早期発見、早期解決や不登校の解消につなげていく。